



株式会社RESVO

自社プレスリリース

弊社の尿を用いたバイオマーカーが島根大学医学部の産学連携の 共同研究にて採用されました

精神疾患の根本的解決を目指し事業を展開する弊社株式会社RESVO(本社：東京都大田区、代表取締役：大西新、以下「RESVO」)の開発したバイオマーカーが、国立大学法人島根大学医学部(以下「島根大学」)が行う産学連携による共同研究にて採用されることが決定いたしました。

【共同研究について】

この共同研究は精神疾患患者を対象とし、治療過程のHAM-Dの変化とバイオマーカーの変化を調査・解析することで、診断や治療に有用な測定ツールの探索を行います。この共同研究の測定ツールとして、RESVOのストレスチェッカーが採用されることになりました。

詳細は島根大学のプレスリリースもご参照下さい

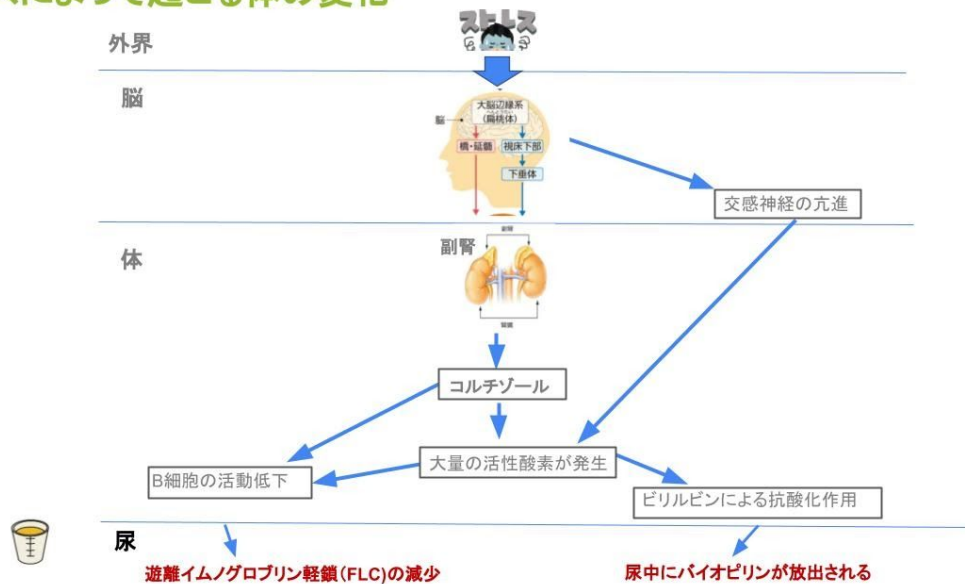
〈https://www.shimane-u.ac.jp/_files/00224802/20210210release.pdf〉

【RESVOのストレスチェッカーについて】

ストレスを受けると、脳がそれを感知し、身体に影響が出てきます。最終的には尿の成分も変化し、活性酸素関連分子であるバイオピリンが増加したり、さらに高ストレス状態が続くと、今度は免疫機能が抑制され、免疫関連分子である FLC の低下が見られてきます。弊社の技術はこの尿中バイオピリンと FLC を測定し、解析することによって精神疾患発症危険状態（以下「ARMS」）をキャッチできるツールを開発しました。現状としましては日本では新しい概念であるため、本人が専門機関に受診する必要があったり、また、熟練した精神科医の構造的面接でなければ、判断が難しい状況でありました。そこで、弊社のストレスチェッカーを用いることによって客観的な評価が可能となり、本人や医師の負担軽減にも役立つことが期待されています。

なお、精神疾患発症の引き金となるのはストレスの度合いとも関係しているため、この分子を捉えることは、ストレスの指標としても活用できるのではないかと考え、現在、RESVOではこの技術を応用して新たなストレスチェッカーとして販売する事業も進めております。

ストレスによって起こる体の変化



【精神疾患発症危険状態（ARMS）】

全ての精神疾患はこの過程を経由すると言われています。ARMSは精神疾患を発症する高リスク群であると言えますが、必ずしも全ての人が精神疾患を発症する訳ではなく、この状態で介入することによって発症に至らないケースもあります。

そのため、この状態をキャッチすることは精神疾患発症を防ぐ重要な鍵となってきます。

【島根大学とRESVOについて】

島根大学とRESVOは平成30年1月5日より、共同研究講座「免疫精神神経学共同研究講座」を設置しております。なお当初の設置期間は平成32年1月4日までの予定でしたが、弊社の研究の進捗に伴い2年延長することとなりました。

【会社概要】

株式会社RESVO（レスボ）

本社：〒143-0016 東京都大田区大森北3-15-5-201

WEBサイト：<http://resvo-inc.com/>

RESVOは精神疾患の解決を目指しています。精神疾患の発症リスクを検知するマーカーを利用した尿検査サービスのほか、免疫を由来とする精神疾患の層別化を行うための血液マーカーの開発を行っています。

本件に関するお問合せ

E-mail：information@resvo-inc.com

担当；広報 志村